

平成 23 年度に実施した認証評価に関する検証結果報告書の概要 (高等専門学校)

認証評価の有効性や適切性について検証し、評価内容・方法等の改善に役立てることを目的に、平成 23 年度に実施した認証評価について、対象校及び評価担当者へのアンケートを実施。

【アンケート回収状況】

◇高等専門学校機関別認証評価

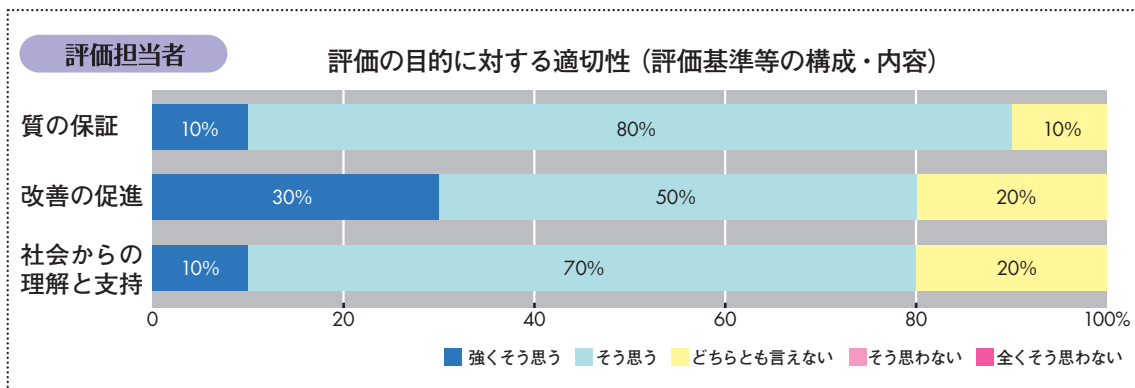
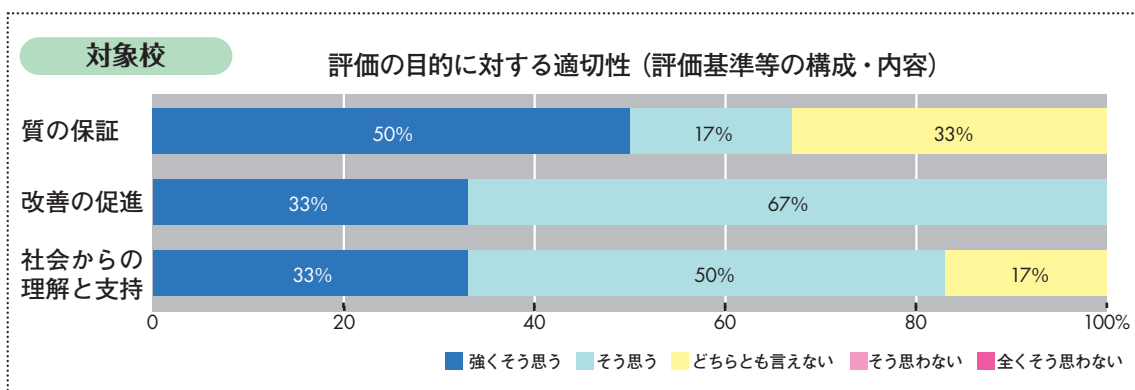
対象校 6 校（高等専門学校 6 校）すべてから回答

評価担当者（部会構成員）12 名中 10 名から回答（回収率 83%）

1 検証結果の概要

評価基準及び観点について

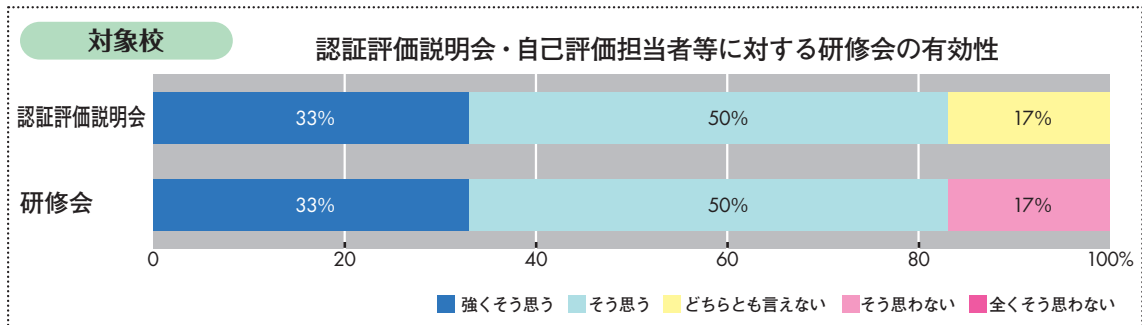
評価基準及び観点の構成や内容は、高等専門学校の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね適切なものであると考えられる。また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であると考えられる。



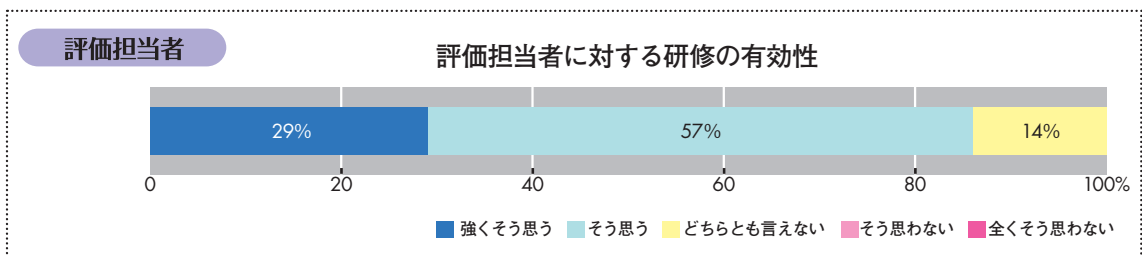
※設問の回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないものもある

説明会・研修会について

認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会は有効であると考えられる。

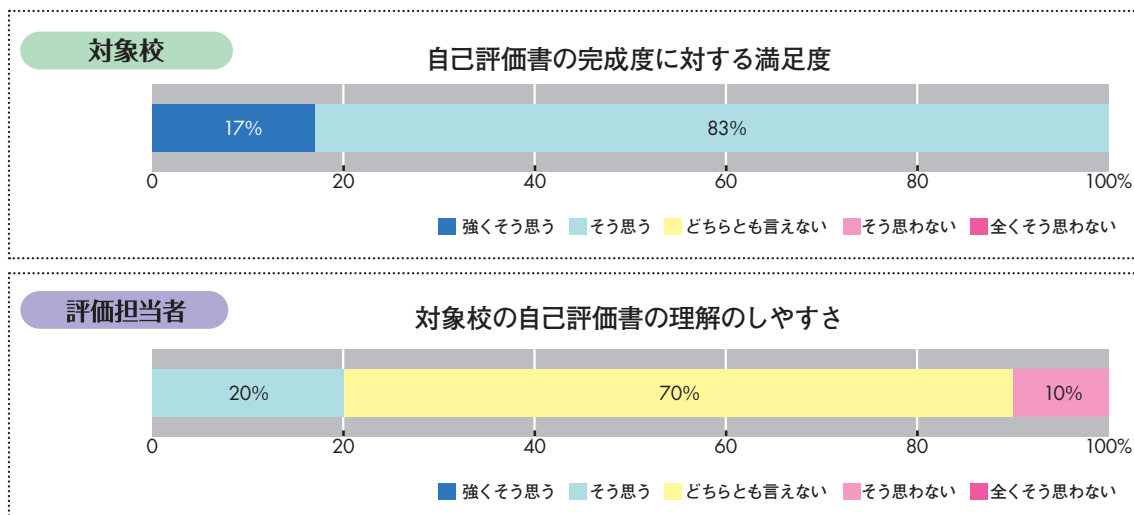


評価担当者に対する研修も有効であると考えられる。



自己評価書について

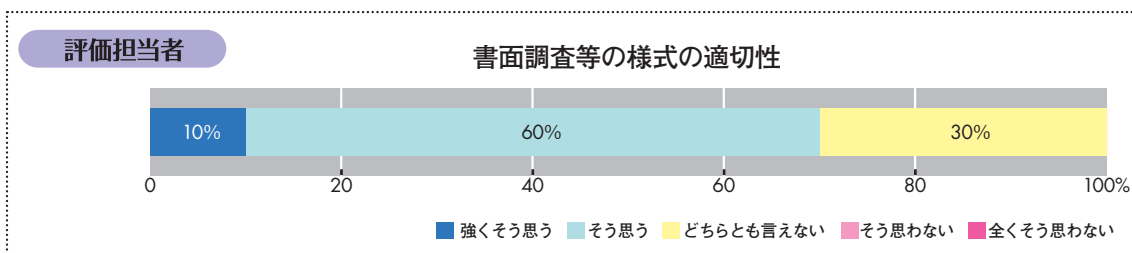
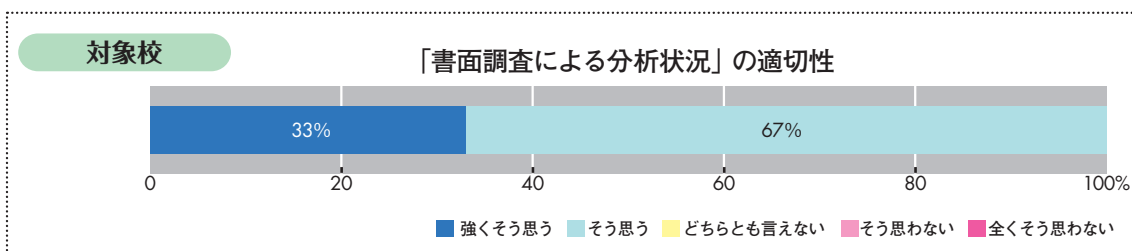
自己評価書については、完成度の高い自己評価書が作成されたと対象校が認識している一方で、評価担当者からは自己評価書の理解しやすさについて肯定的な回答が必ずしも多いとは言えない。今後も引き続き、説明会等で自己評価書の書き方について対象校の理解を深めるとともに、対象校においては自己評価書全体の記述内容を通読して管理監督する担当者が必要であることを強調することが求められる。



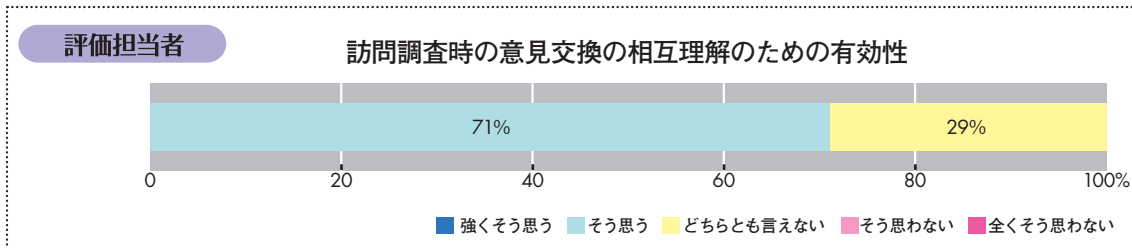
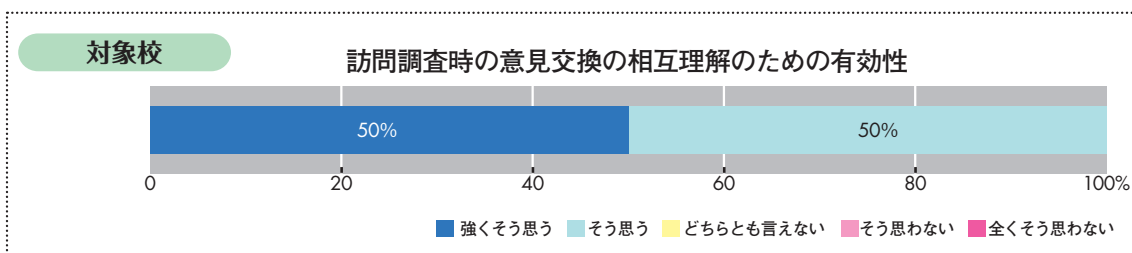
自己評価書の添付資料についても、必要な根拠資料が引用・添付されていたとの評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多くない。今後も引き続き、説明会等で添付資料についての対象校の理解を深める工夫が必要である。

書面調査・訪問調査について

「書面調査による分析状況」の内容や書面調査票等の様式は概ね適切であると考えられる。

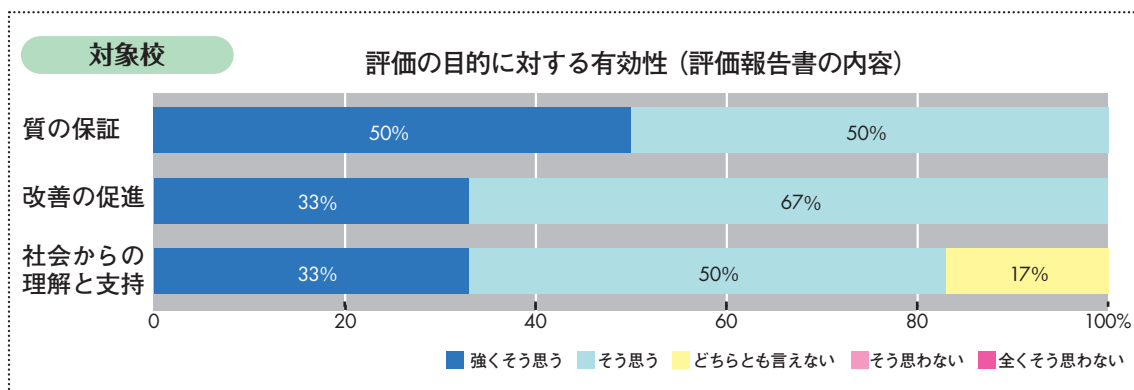


訪問調査の実施によって、対象校と機構の評価担当者との間で共通理解を概ね得ることができたと考えられる。

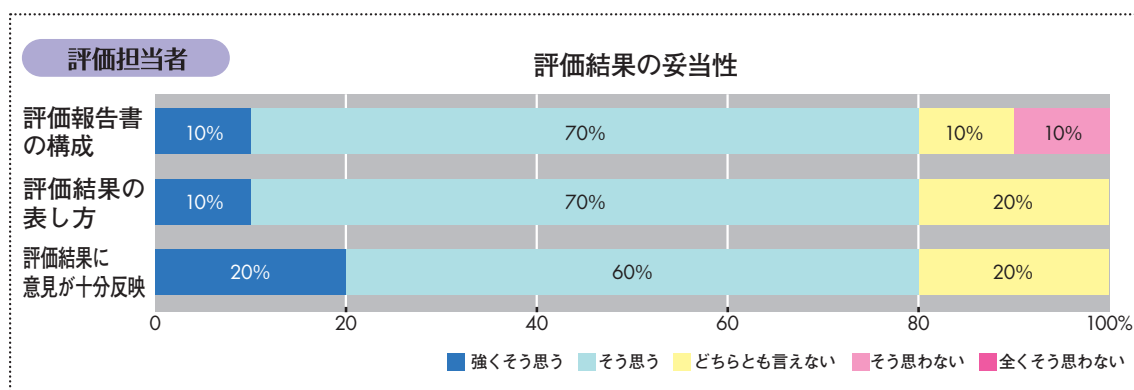


評価結果（評価報告書）について

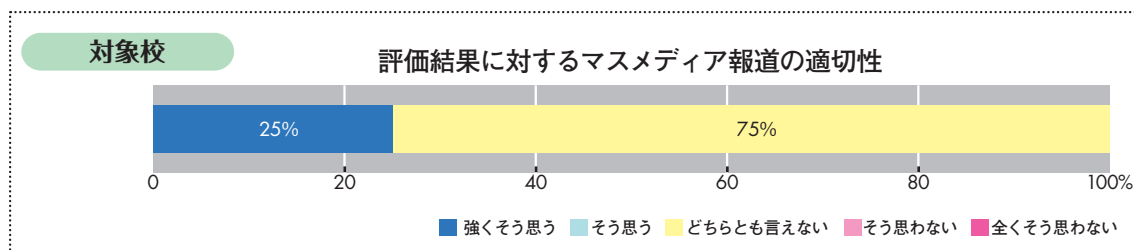
評価報告書の内容については、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らして適切なものであると考えられる。



評価報告書の構成、評価結果の表し方及び評価担当者の意見の評価報告書への反映についても適切であると考えられる。

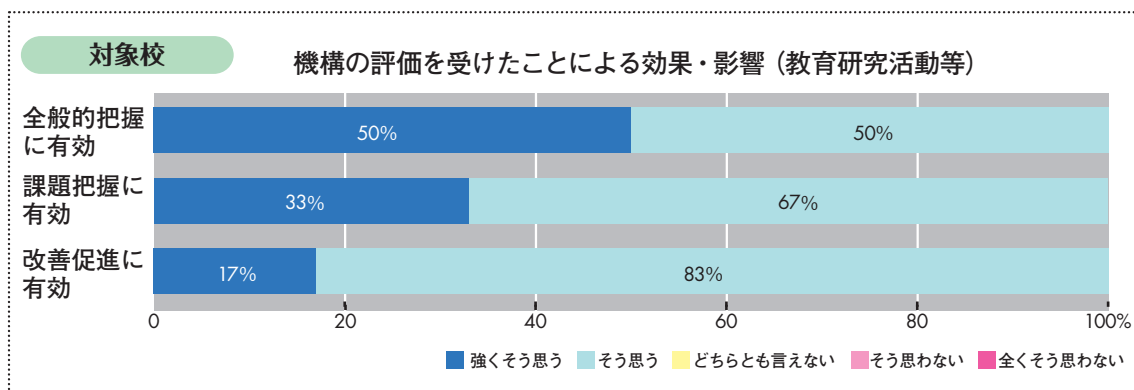


評価結果に関するマスメディア報道の適切性についての対象校からの肯定的な回答は必ずしも多くない。認証評価の社会的認知度の向上については、今後、更に工夫を行っていく必要がある。

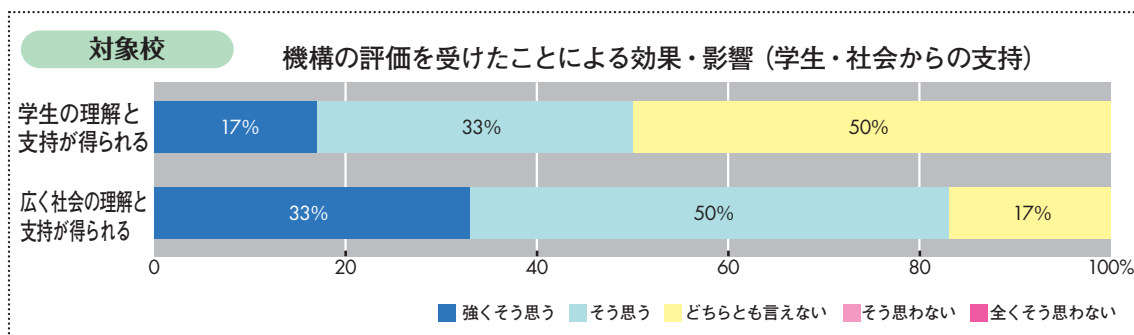


評価の効果・影響について

対象校が評価を受けたことは、教育研究活動等の状況や課題の把握、改善の促進に有効であると考えられる。



学生や社会からの理解と支持に概ね有効であると考えられる。

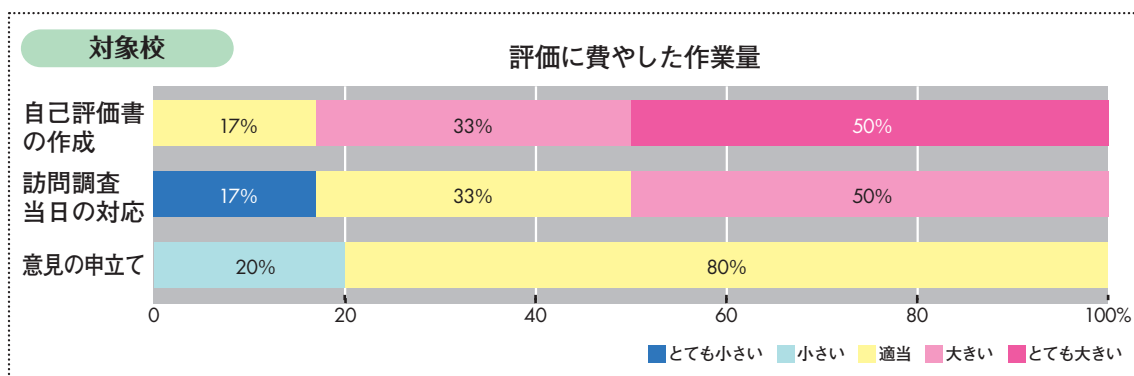


組織的な運営及び自己評価の重要性の教職員への浸透、意識の向上に概ね有効であると考えられる。

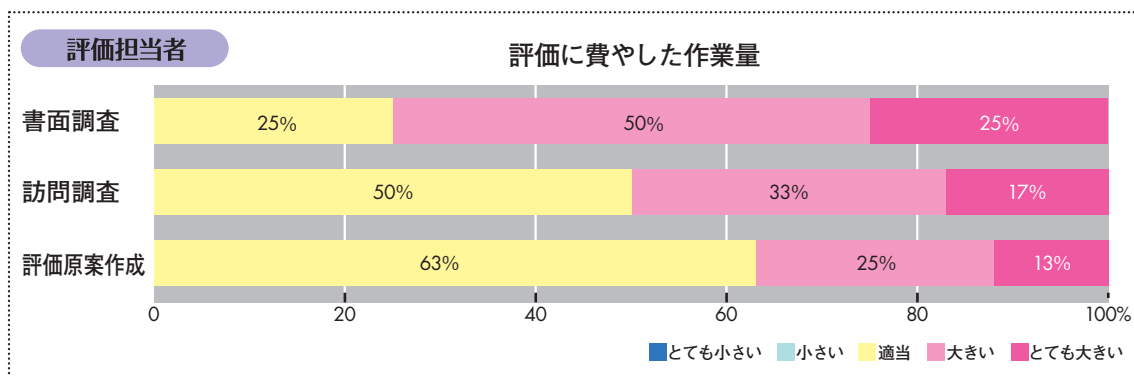
自己評価の実施及び機構の評価結果を踏まえた改善・向上への取組は、各対象校で着実に進められている。（具体的な改善事例は別紙1のとおり）

評価の作業量等について

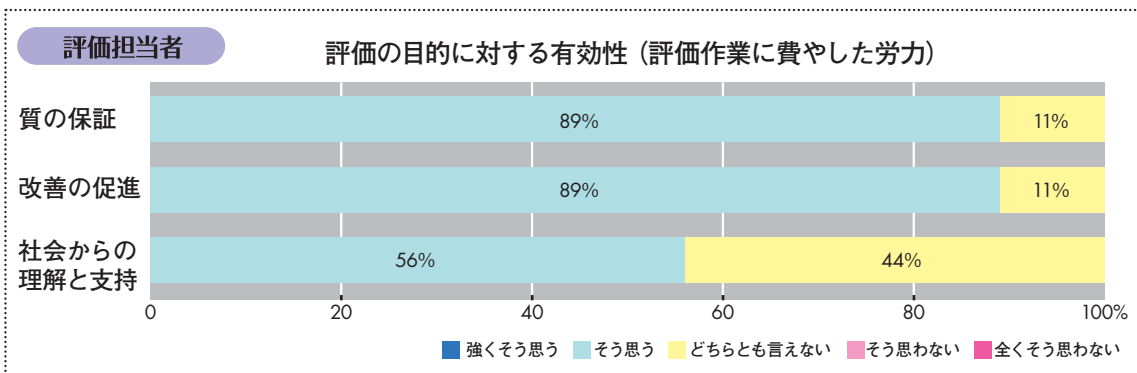
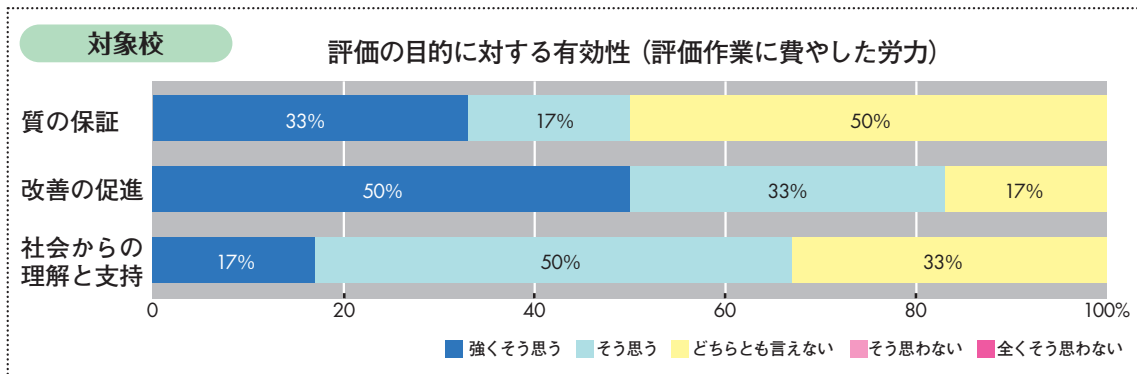
評価に費やした対象校の作業量については、意見の申立てに係る作業量は適切であると
考えられる。なお、自己評価書の作成及び訪問調査当日の対応に係る作業量については、
大きいとする回答が寄せられているため、今後も引き続き評価の効率化に努める必要が
ある。



評価に費やした評価担当者の作業量については、評価結果（原案）の作成に係る作業量
は概ね適切であると考えられる。ただし、自己評価書の書面調査に係る作業量については、
大きいとする回答も寄せられているため、今後も引き続き、評価の効率化に努める必要が
ある。

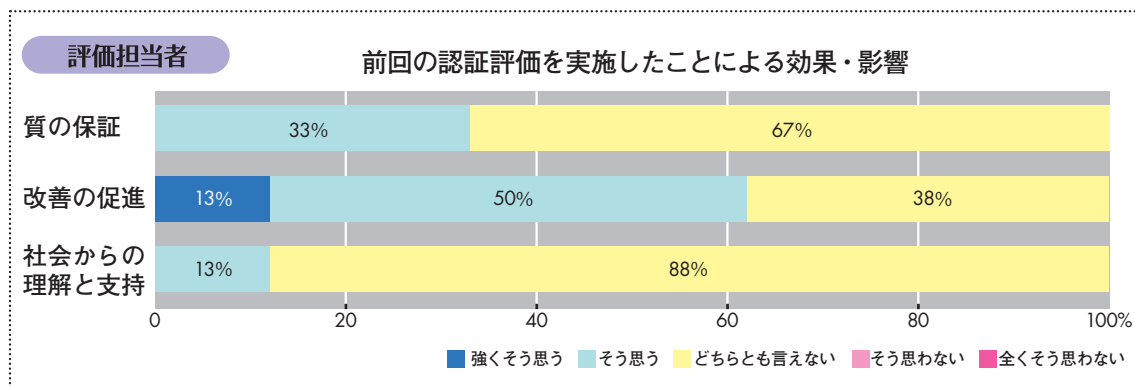
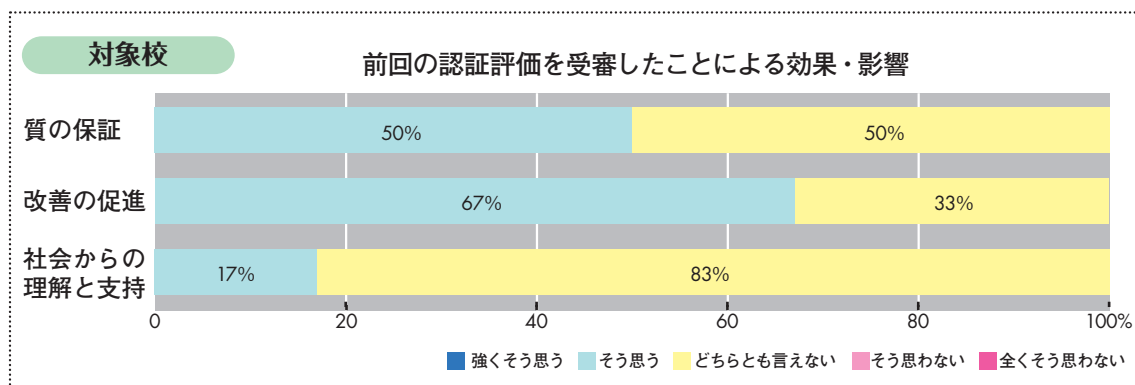


評価作業に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね見合うものであったと考えられる。

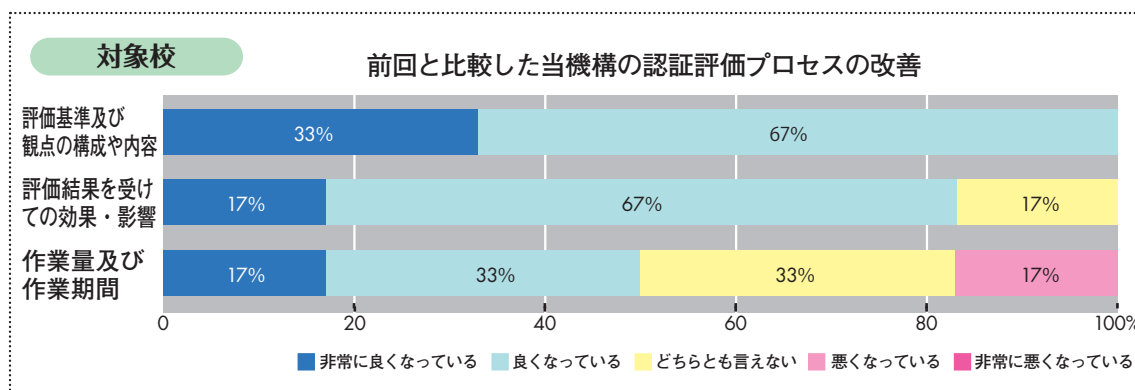


■ 前回の認証評価受審の効果・影響及び認証評価プロセスの改善について

対象校が前回の評価を受けたことにより、教育研究活動等の「改善の促進」に概ね効果・影響があったと考えられる。一方、教育研究活動等の「質の保証」「社会からの理解と支持」に効果・影響があったかについては、「どちらとも言えない」とする回答がやや多く見られた。



対象校が前回の評価を受けた時と比較して、評価基準及び観点、評価の効果・影響、評価の作業量及び作業期間は概ね適切なものになったと考えられる。



認証評価結果を受けた対象校の改善取組の例 (代表的なものを抽出)

- 準学士課程の学生への学校の目的や教育目標についての認知度を高めるため、教務委員会で検討し、学級日誌に教育目標を載せるとともに、各学科の教育目標を簡潔な言葉で言い表した。
- 学生便覧について、学生への周知を考慮して説明項目の配置を改善した。
- 準学士課程の教育目的等を学生便覧及び学校要覧に明記した。
- 教育理念・学習教育目標などについて、学内へのパネルの設置や教室への掲示等の対策を施して学生及び教職員の周知度の向上を図った。
- 専攻科課程におけるインターンシップの充実を図ることとした。
- 学生による達成度評価に対する学生の関心と認知度が低いため、達成度評価の実施方法も含め改善の検討を開始している。
- 準学士課程と専攻科課程との区分を明確にした学習目標の細目設定等の見直しを進めている。
- 専攻科課程において、学習・教育目標「(A) 豊かな人間性と社会的責任感の育成」に必要な授業科目が十分でないため、専攻科教育課程の大幅な改定を検討している。

認証評価の改善・充実のための機構の取組例

評価結果（評価報告書）関係

- 認証評価機関10機関により組織される、認証評価機関連絡協議会の下、他の認証評価機関と合同で記者発表を実施した。